

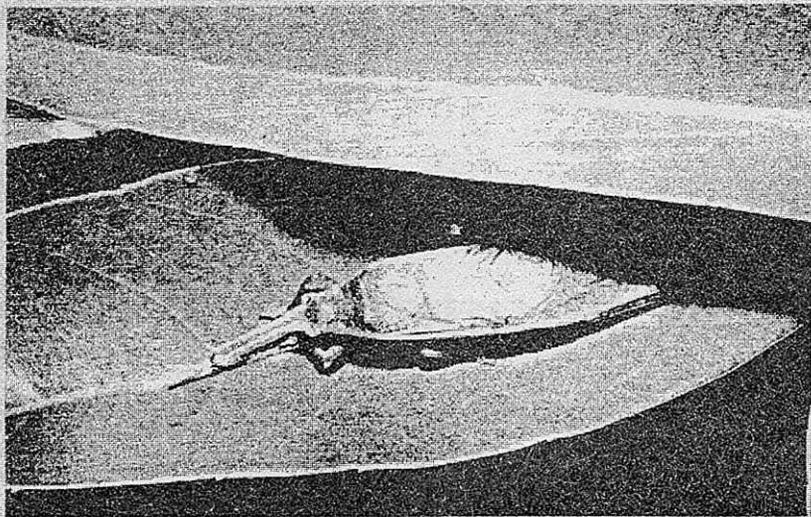
アオマツムシ

数年前、初めて富山県にお目見えしたアオマツムシは、少しずつ分布を広げていて、現在では富山市街、呉羽丘陵の他小杉町でも鳴き声を響かせています。市内中央部の公園や街路樹上で鳴くアオマツムシの声をそれとは知らず聞かれた方も多いのではないでしょうか。

私の知人は、今年9月に初めて、市街地を少しはずれた自宅の庭木の上で鳴き声を聞いたと教えてくれました。夜8、9時ごろにいちばんよく鳴いていたそうです。

富山に現れた初期のころは公園や街路樹で聞かれたものですが、住宅地にも生息場所を広げているのでしょうか。

アオマツムシの成虫は9、10月に現れます。体長約2.5cm、広葉樹の葉の上において、体は緑色で流線型、体の左右両側に黄色の筋があります。触角はたいへん長く、一方足は短めです。オスの背面には茶色の紋があり、メスにはありません。葉の上でじっとしているとたいへん見つけにくい虫です。しかし、その鳴き声はリーリーリーとまことによく響きわたるので、一度鳴き声を覚えるとどこで鳴いていようとすぐにわかります。



アオマツムシ (オス)

木の枝に産みつけられた卵で越冬し、6、7月に卵からかえります。幼虫は広葉樹の葉を食べて成長しますが、木の種類の選り好みはあまり無くサクラ、カエデ、シイ、ポプラなどいろいろな木の葉を食べるようです。

アオマツムシは外来の昆虫で、日本に入ってきたのは明治30年ごろのことです。原産地は中国大陸南部らしいといわれていますが、まだ確実ではないようです。というのは、南の方には似た種類がたくさんいて、日本のアオマツムシと同じ種類を見つけるのがなかなかたいへんなのです。

明治30年頃日本にやってきたアオマツムシは、その後東京市内（そのころは東京市であって都ではなかった）に広まっていきましたが、大正12年の関東大震災や第2次世界大戦時の大空襲による東京の破壊や、また戦後のアメリカシロヒトリ防除のための殺虫剤散布によって、たいへん減ってしまっていました。

しかし、たくましく生き残っていたアオマツムシは、昭和40～50年代に急速に関東、東海、関西へと分布を広げていきました。そして現在も広がっています。福島県以南熊本県以北の各都府県には行き渡ったようです。

急速に広がったのは、街路樹づたいの移動ほか、卵の産みつけられた庭木や苗木の移動によるところが大きいと考えられています。まったく飛び離れた所に突然現れることも多いのでそう考えられるのです。これから先も、富山県内でも生息地を広げていくにちがいありません。

あなたの近くではいつごろどうやって登場するのでしょうか。アオマツムシの鳴き声を聞かれた方は、ぜひ科学文化センターへご連絡ください。

一つ一つの情報の集積で、ある一つの生き物の勢力拡大の現場をつかまえることができるのです。

(根来 尚)



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123 (代表)

平成3年11月 1日